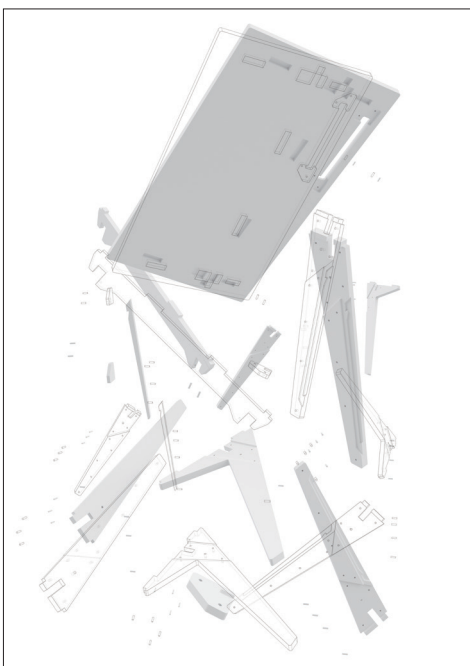


DF Project Type S

デザイン学科 木下陽介



2007年東京工芸大学デザイン学科卒、内装設計のインハウスデザイナーを経て2012年、東京を拠点とするデザインコレクティブCANUCH設立。人と物との関係性の探求を起点とし、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、マテリアル開発など様々なプロジェクトを手がけている。代表的な仕事に、株式会社ルミネ新オフィス、鎌倉紅谷八幡本店、TBWA\HAKUHODOオフィス、JIDA Design Museum Selection Vol.22 に選定された、小国杉を使用したファニチャーFILの「MASS SERIES」のデザイン等。



現代のデジタルファブリケーション技術における生産方法は、個人レベルで自由なものづくりと流通を確立させるネットワークとなっている。本技術における出力機は現在、手のひらサイズから建築まで造形を持つ媒体に広く適用できる進歩を遂げており、職人にしかできなかった家具や建築のデザイン・部品加工などを、すべての設計者・デザイナー・DIYユーザーに解放し1点からでも、大量にでも、生産可能にする技術である。

一方で、「生活者視点」と「サステナビリティ」に貢献する観点をこの領域ではまだ確立できていないという課題がある。本研究は、「限定的な素材条件(単一素材)」と「フラットパック(最小梱包)」、「タイポロジーとしての生活空間への適用(類型学的意匠)」が必要であると考え、製作した成果である。このDF Projectはコロナ禍による在宅ワーク需要を想定したセルフビルドで作り上げる個人ワークデスクタイプのアッセンブリファニチャーである。